

東京の夜間定時制高校の存続を求める緊急アピール

「学校不信から高校に行かずに働きたいと言っていた息子は働きながら学べる夜間定時制に進学し、今では高校の教師をしています。夜間定時制をなくさないでほしい」。4月5日の7校の定時制の存続を求める集会にさまざまな立場の人がかけつけ、次々と夜間定時制の魅力を語りました。

こうした声に背を向け続けているのが東京都教育委員会（都教委）です。昨年10月、さらに夜間定時制の募集停止（廃校）を拡大する計画を決めました。その理由として夜間定時制は小規模だから教育効果が十分に得られないと説明したことに怒りの声が上がっています。小規模だからこそ、教師と生徒のアウトホームな関係のなかで、授業や部活動、学校行事などに取り組むことができるのではないのでしょうか。「誰一人取り残さず」（東京都教育施策大綱）が東京の目指す教育であるなら、

夜間定時制高校を廃校にするのではなく、よりいっそう充実させるべきです。

4校の夜間定時制高校の募集停止が発表されてから10年、毎年署名を集めて声をあげ、立川高校と小山台高校の2校の夜間定時制を存続させてきましたが、今春、立川高校定時制は募集停止になりました。都教委が代替校の役割をはたすとして立川市に新設した昼夜間の定時制であるチャレンジスクールに受験者が集中し、250人近い生徒が不合格になりました。来春には、このままでは小山台高校（品川区）、桜町高校（世田谷区）、大山高校（板橋区）、北豊島工科高校（板橋区）、蔵前工科高校（台東区）、葛飾商業高校（葛飾区）の6校の夜間定時制高校の生徒募集が停止になります。

都教委は募集停止になっても遠くの他の定時制や全日制の高校に通えばいいという無責任な



緊急アピール発表の記者会見
(都庁記者クラブにて 2025/6/9)

対応を考えています。生徒のことを考えない無謀な廃校計画です。しかも、該当校の在校生や卒業生、地域の住民などへの説明は何もなされていません。

都立夜間定時制高校を舞台にしたNHK連続ドラマ「宙（そら）わたる教室」では、さまざまな理由で夜間定時制にたどり着いた生徒たちが「あきらめたものを取り戻す場所」が描かれ、共感を呼びました。夜の教室で学びと居場所を必要とする生徒がいる限り、夜間定時制高校をつぶしてはなりません。

2025年6月9日

- 石川文洋（写真家・都立両国高校定時制卒業生）
- 梅原利夫（和光大学名誉教授）
- 太田直子（映画「月あかりの下で・ある定時制高校の記憶」監督）
- 太田政男（大東文化大学元学長）
- 児美川孝一郎（法政大学教授）
- 澤井留里（墨田区立文花中学校夜間学級元教員）
- 進藤 兵（都留文科大学教授）
- 多賀哲弥（都立大崎高校定時制元教員）
- 本田由紀（東京大学教授）
- 矢澤宏之（エルムアカデミー代表）
- 山本由美（和光大学名誉教授）

学びのセーフティネット

夜間定時制7校の廃校計画を撤回し 生徒募集の継続を!



- 立川高校
(立川市)
- 小山台高校
(品川区)
- 桜町高校
(世田谷区)
- 大山高校
(板橋区)
- 北豊島工科高校
(板橋区)
- 蔵前工科高校
(台東区)
- 葛飾商業高校
(葛飾区)

いつでも、誰でも、
少人数で学ぶことができるのが
夜間定時制高校の良さです。

それなのに、
なぜ この7校を廃校に?!

定時制校名	所在市区	募集停止年度	閉課程/廃校年度
立川	立川市	2025年度	2027年度 (2028年3月)
小山台	品川区	2026年度	2028年度 (2029年3月)
桜町	世田谷区		
大山	板橋区		
北豊島工科	板橋区		
蔵前工科	台東区		
葛飾商業	葛飾区		

夜間定時制の存続を求める連絡会/東京都立立川高等学校芙蓉会（定時制同窓会）/立川高校定時制の廃校に反対する会/小山台高校定時制の廃校に反対する会/大山高校・北豊島工科高校定時制の存続を求める会/蔵前工科高等学校夜間定時制を守る会/葛飾区内の夜間定時制の存続を求める会

●連絡先 三多摩子育て・教育問題連絡会 (Tel・Fax 042-842-3043)
〒185-0034 東京都国分寺光町1-40-12 北多摩西教育会館気付

私たちは 東京の夜間定時制高校の存続を求める 緊急アピールに賛同します。



2025年7月19日現在

280人の方から賛同をいただきました。 順不同・敬称略

河合美喜夫 糀谷陽子 加藤良雄 宮村博 近藤徹 渋谷絹子 中山伸 岡山輝明 黒田貴子 和島直樹 富山裕美 横川秀博 大能清子 滝口正樹 竹永三男 堀越由美子 小野寺真人 河原和子 浅井義弘 古川正博 藤川正史 黒田恵裕 濱崎宏之 岡求 大根谷剛 古滝登 朝戸理恵子 鶴田昭裕 瀬川均 安達寿子 小澤浩明 井上誠 杉田くるみ 和田伸 濱口克己 野島治 立岩善文 土田謙次 良知永行 太田陽子 外池佑价 山田昇 畠中一明 佐々木弾 掛川伸一 五十嵐香織 野々山陽子 高島圭 しょうじえみこ 島村美津男 武井直樹 前田あゆみ 三浦すみえ 畑山裕 佐藤保 三本さち子 久保富三夫 木村葉子 丹沢早帆 尾崎久照 春山宗治 福山幹夫 青崎百合雄 佐々木晃逸 田原佳幸 小泉秀人 宗雪好秀 和田悠 岩本正秀 早瀬明 奥原由登 林仁 菅豊 増坪一三 池田真澄 中野潤 城之内庸仁 國村純二 中島康浩 杉浦孝雄 小林裕 岡田慶子 竹下忠彦 竹田美枝子 平塚真樹 森川貞夫 海保美季 大川武宏 佐藤洋史 佐藤和子 桜井勇治 増子啓三 堀田和明 浅川典子 井上優子 猪俣京子 江里晃 小林幹男 榎本清 菅晴子 吉水公一 宮原栄子 乾彰夫 金井元 山口日名子 山部佳子 山田京子 田中さやか 中塚史行 小林けさみ 河合正明 岡田良子 吉野典子 高嶋道 福田和久 長澤伸彦 神谷幸男 飯野千春 石川光顕 日達綾 安達三子男 小池澄 野村紀子 土屋真一 林善紀 上之園幸子 猪俣悦子 池田和雄 石川航作 ヤスダトモキ 谷山啓太 長谷川美樹 原田美奈子 桑田富夫 勝村誠 小貫愁 佐藤有美子 西尾理 松丸和夫 周藤新太郎 松崎靖子 三浦真智 林康夫 星野直之 島津訓一 矢沢茂子 大友秋彦 にしだともこ 砺波路子 築田陽子 池田祐子 田嶋昌治 濱田嘉一 繁田早苗 鈴木秀治 種帰建夫 神保孝 松尾敏行 海野清 綿貫公平 渡辺雅之 杉浦真志 斎藤欣也 石林紀四郎 杉田明宏 林辻直也 小嶋昌夫 今田和歌子 川上千恵 浅野喜佐央 木村清子 塚田一未 加藤修朗 佐藤朗子 島本真治 佐久間貴大 吉田敬一 藤田実 生熊茂実 中里尚子 三木陵一 三矢泉 土岐延子 福田和寿美 根岸美絵子 南恵子 高島佳子 杉浦良子 犬山緑 秋山正臣 山田功 石神真悠子 平野和弘 高仲祥子 高田桂太郎 水野左梨那 中里時夫 白石弥生 内田敦 平野倫明 池田幹子 根津公子 岩木俊一 新井史子 金子輝慶 小山万里子 棚井行隆 田中均 石川美紀子 小泉潔 ふかざわゆたか 福岡陽子 よこいやすお 小林恵子 山口正人 野島大輔 岡本富郎 岡本紀子 黒田順 和田茂 小林早苗 鈴木敏夫 吉田守 沖村民雄 浜みゆき 今井雅裕 山内千晶 野道秀一 網野一也 白石民男 會田圭子 山崎進 (ほか48名)

賛同の 声

最後にたどりついた母校(定時制)

匿名(会社員) 私は夜間 定時制高校の卒業生です。色々な背景から最後に辿り着いたのが母校です。間違いなく私の人生は高校を卒業し定時制高校で出会った人達によって持ち直しました。そんな私の母校も廃校になりました。必要な人は絶対にいます。そんな最後の砦を守っていただきたいです。

生徒たちを生き返らせる不思議な力

加藤良雄(立川高校定時制元教員) 夜間定時制は、生徒たちを生き返らせる不思議な力、魅力的な教育力を持っています。そういう「宝の居場所」をつぶすなど、あってはならないことです。机上の計算やつじつま合わせでは、定時制の魅力を伝えることはできません。都教委は現場に来て、実態を自分の眼で、しっかり見るべきです。

学ぶ権利の保障を

宮村博(都立高校元教員) すべての子どもにあらゆる場で学ぶ権利を保障するのが教育行政の責任ではないか。東京都はその負担に耐える十分な財政力を持っている。定時制廃止などあってはならない。

自分の進路を切り開いていく姿を

井上優子(都立高校定時制元教員) 元定時制高校の教員として、様々な事情を抱えた生徒を含め、沢山の生徒達がアットホームな環境の中で4年間充実した高校生活を送り、自分の進路を切り開いていくのを見てきました。夜間定時制は3部制の学校で置き替えられるものでは決してありません。夜間定時制高校の存在価値が見過ごされ、むげに廃校にされるというこの悲しむべき事態にストップがかかることを切に願います。

この場だからこそ人としての尊厳を回復していける

平塚真樹(法政大学教授) 夜間定時制高校は、学校という制度が有する可能性を最もよく体現した学びの場です。それを廃止することは、この場だからこそ人としての尊厳を回復していける多くの子ども・若者の進路を閉ざし、公教育の可能性を著しく狭め、社会のレジリエンスを大きく低減することになります。

夜間定時制の価値を大切に

和田悠(立教大学教授) 教育への投資をしまない国をつくるのが、私たちの社会の幸せにつながります。さまざまな背景を持った人たちが、じっくりと学べる、学力と生きることが不可分なものとしてある、そんな夜間定時制の価値を大切にできる行政を私は求めます。

誰にも開かれた「学び直し」のセーフティネット

綿貫公平(都内公立中学校元教員) 夜間定時制こそ、誰にも開かれた「学び直し」のセーフティネット。近くにあるからこそ通い続けられる、学び続けられる。今、ひきこもっていたor不登校だった若者たちと関わりながら、人はやはり人との関わりの中で生き直すことができると痛感しています。



HPでも公表しています。 <https://mamore-teijisei.net/>

